

## 東原 伸明

HIGASHIHARA, Nobuaki

教授

連絡先：088-821-7162

## PROFILE

生年 1959

研究者略歴

- **所属** ①文化学部文化学科  
②大学院人間生活学研究科（2004年～）
- **学位** 博士（文学）（名古屋大学、2009年）
- **学歴・職歴**  
國學院大學文学部文学科卒業（1982年）、同大学院文学研究科博士課程後期単位取得満期退学（1987年）、県立高知女子大学文学部助教授（1997年）、同文化学部教授（2007年）を経て現職
- **専門分野** 『古事記』『土左日記』『源氏物語』など古代散文文学
- **所属学会** 上代文学会、中古文学会、日本文学協会、学術団体物語研究会
- **講義科目**  
【学部】平安朝文学演習C、物語文学講読I A、II A、日本神話講義、土佐地域文化研究（文学）、文学批評理論、日本語文章構成法、日本文学史、基礎演習、文化学入門、日本文学、国語科教育法Ⅳ、卒業研究  
【大学院】研究方法論Ⅲ（博士前期）、表象・メディア論（博士後期）

## 研究 SEEDS

## ■ 研究テーマ

『古事記』・『土左日記』・『源氏物語』等の、古代散文文学の研究

## ■ 研究概要

現在は、『土左日記』や『竹取物語』等の初期散文文学の言説（言語表現）から古典として完成された『源氏物語』の言説が、どのように出現したのか、その連続性を追究する研究を行っている。

## ■ 相談可能な領域

『古事記』・『土左日記』・『源氏物語』等、古典文学の講座、講義、解説

## ■ キーワード

古代散文文学 語り 言説 テキスト 脱構築 近代合理主義批判 パロディ 虚構 他界観 引用文学史 方法 鏡像

## DATA

主な功績

## 主要研究業績等

- 東原伸明：物語の作者と読者—散文ジャンルを読むことの相関性—源氏物語の生成と構築 新時代への源氏学 1, pp.279~302 (2014.5) 竹林舎, 東京
- 東原伸明：〈家〉と〈個〉の再定義—須磨・明石—関係性の政治学 I 新時代への源氏学 2, pp.147~173 (2014.5) 竹林舎, 東京
- 東原伸明：「童」の性は男か女か？初期散文叙述の特性検証 物語研究会四〇周年記念シンポジウム物語学の現在「記憶」の創生〈物語〉1971-2011, pp.11~74 (2012.3) 翰林書房, 東京
- 東原伸明：権威の脱構築化「諸謔」の生成=パロディとしての『土左日記』、『高知女子大学紀要 文化学部編』60, pp.1~14 (2011.3)
- 東原伸明：漢詩文発想の和文『土左日記』、『日本文学』, pp.40~45 (2011.5)
- 東原伸明：童の性は男か女か？初期散文叙述の特性検証と近世歌学者批判, 『高知県立大学紀要』61, pp.1~8 (2012.3)
- 東原伸明：『土左日記』の言説分析, 『高知県立大学紀要』62, pp.1~14 (2013.3)
- 東原伸明：『土左日記』の表記と言説『武蔵野文学』, 第61集, pp.25~29 (2013.12)
- 東原伸明：散文の「学」を拓く, 『土左日記』研究, 『日本文学』, pp.12~20 (2014.5)
- 東原伸明：「日常」のことばから「和歌」のことばへ—和歌生成論, もしくは『土左日記』の思想と言説『高知県立大学文化論叢』3, pp.74~86 (2015.3)

## 主な著書

- 土左日記虚構論 全281頁（2015年）武蔵野書院, 東京
- 新編 土左日記 全140頁（2013年, ローレン・ウォーラーとの共編著）おうふう, 東京
- 古代散文引用文学史論 全254頁（2009年）勉誠出版, 東京
- 源氏物語の語り・言説・テキスト 全166頁（2004年）おうふう, 東京
- 物語文学史の論理 語り・言説・引用 全253頁（2000年）新興社, 東京
- 日本文学研究資料新集 源氏物語語りと表現 全頁261（1991年, 三谷邦明との共編著）有精堂出版, 東京

## 主な社会貢献など

- 県民を対象とした源氏物語講読の会を主催し、ウィークディに永国寺の校舎で行っている（例年6月7月と2月3月）。
- 「県民開放授業」として、「演習」以外の文化学部の専門科目を県民に受講開放している。